防災 News

# どうする 防災



2024年2月号
和合町自主防災隊

## 今月の「どうする」は、「避難所での生活」

令和6年元旦に発生した能登半島での大きな地震。自宅での生活ができなくなり、今も、たくさんの方が避難所で生活されています。
これまで、在宅避難が原則です、とお伝えしてきましたが、避難所での生活を送らざるを得ないことが、実際に起こるということが、今回の地震で明らかになりました。
避難所での生活を振り返ってみましょう

□**水**…避難所に行っても、非常用の飲料水は全員にいきわたる量はなかったようです。
給水車が来たのは3日ほどたってからだったようです。
生活用水もなく、ほんの少しの水を大切に使いながらの生活を強いられました。

□**トイレ**…断水と配管部の破損等で、便袋を使っての簡易トイレの使用でした。
使用済みの便袋からは悪臭がもれ、トイレは衛生的にも大変な状態だったようです。
6日目ごろから始まった感染症は、トイレの不衛生に加え、手洗いが十分にできなかったことが原因ではないかと言われています。

□**食料**…発災当日は、一日におにぎり一個とか、備蓄用の乾パン程度しかなく、みんなで分け合って食べたようです。救援物資が末端の避難所に届くまでは、しばらく時間が経ってからでした。
また、道路の寸断などによって、救援物資を届けることができない避難所もあったようです

□**寒さ対策**…避難所である体育館の床はとても冷たく、そこで過ごさなくてはならないことは、とても大変なことでした。救援物資の毛布が届くまでは、寒さに耐えながら、ありあわせの服を着こみ、防寒着を重ねて暖をとったそうです。
段ボールベッドは床で過ごすことに比べ、かなり快適だったようですが、届くまでにはずいぶんな時間がかかったようです。
暖をとるための灯油やガソリンも、底をつくことを心配しながら使ったそうです。

**<u>これらのことから大規模災害が起こった時私たちが考えておかなくてはならないこと</u>**

① あらゆることが、訓練の通りにはいかない
② 避難所に行ってもそこは、危険から身を護る場所でしかない
③ 救援物資が届くまでには時間がかかる
④ 自分の飲み水、食料（ペットボトルの水と乾パン程度）は持って避難
⑤ 感染症対策のためのマスクと携帯用のアルコールなど衛生用品を持って避難

自宅での避難生活を想定して、皆さん準備をされていると思いますが、いつ何時、避難所に行くことになるかもしれないということ。そして避難所での生活は困難なのだ、ということを知っておいていただきたいと思います。

筆耕：防災コーディネーター　松山　美佐